地元と共に取組む探究学習と地域づくり
-交流、学習、実践の方法論-

出川真也
社会教育士
特定非営利活動法人里の自然文化共育研究所　理事長
大正大学地域創生学部　専任講師
大正大学エンロールメント・マネジメント研究所　専任講師
E-mail s_degawa@mail.tais.ac.jp

社会教育士

自己紹介

- 社会教育士，https://www.mext.go.jp/a_menu/01_l/08052911/mext_00667.html
- ウェブサイト「地域創生の教育学」，https://degawaken.com/
- 農山漁村における地域づくり教育・実践、地域に根差した学び
  NPO法人里の自然文化共育研究所，https://sato-ken.org/
- 参加型のプログラム作り、学んだ成果の可視化と実践への活用
  （アセスメント（評価）、活用するために学ぶ、実践のための学び）
  エンロールメント・マネジメント研究所，https://emir01.tais.ac.jp/website/

1. 専門分野と地域を横断し結びつけることで、研究や指導の能力を向上させる

- （1）教員の「越境学習」のすすめ
  ホームとアウェイを行き来することで、教育・学習支援のイノベーションを起こす
- （2）「異業種・多職種連携空間」と「異業種・多職種連携教育」
- （3）身近な地元の様々なコミュニティや題材にアプローチすることは、まさに生徒／教員にとっての発達の契機。そのことは、住民にとっての学びや発達の機会でもある。地域性の高いところこそ学びの宝

↑

探究学習の指導には生徒と教員双方にとっての発達の可能性がある

参加型で構想する地域学習（探究授業）の実践プログラムづくりの具体的支援手法としての、「地元学」と「ロジックモデル」の活用

ヒアリング

（お話を聞く）

地元学

（地域を歩く）

ロジックモデル

（取組を振り返る）

ワークショップ

（計画を作る）

全工程を関係者参加型で行い、段階ごとにその成果を可視化し、共有することで実行性の高い取組へと育っていく

地元学とは

- 地元に学ぶ地元学（提唱者　吉本哲郎）
- 住民（学習者）とともに、地域を歩き、身近な地域資源を見つめ直し、外部者の目線の違いを活用しながら、自らの力で可視化し、表現し、その価値を再発見する取り組み
- 調査のための調査ではなく、実践のための調査という側面

- 参考　NHK地域づくりアーカイブス　　検索→地元学

動画を探す｜NHK地域づくりアーカイブス

「地元学で地域を元気に」（前3回シリーズ）が手法の実際とその背景となる理念の概要全体を紹介している

地元の元気を作り出す地域再発見に向けて
－東北のある農山村の取組実践から－

- 地元住民は「何もない村」と言う。
  ヨソモンが地元から学ぶプロセスを通じて、地元住民が自分たちのことを再発見する。
- 外部者によって作られたイメージや、切り取られたテーマではなく、その地域・地元を地元のニーズ（想い）に寄り添いながら丸ごと見ていくということ。まずは地域住民の「暮らし」から学ぶということがポイント。
- すでに農山漁村の住民は自分たちで学び、自分で計画を作り、実践していく能力がある（それを邪魔しない。引き出す、育てる）。
- 村人が関心を持って集まる動機って何だろう？　楽しみ、遊び、交流、お酒！　遊びを決めてから仕事するという流儀

地元学（地域の環境文化調査）

～まずは地域の「あるもの探し」からはじめよう～
子どもから大人まで地域住民とヨソモン参加で実施

地元学（地域の環境文化調査）

～聞いて、見て、やってみて、調べました～

子どもも大人もじいちゃん、ばあちゃんも楽しくなる

地元学で発見された水辺の生き物達

地元学で再発見された郷土料理の数々

美味しいものがたくさんある！
～山菜料理のレシピが１００種類以上～

←冬に備えて瓶詰めなどにして保存。

美味しいお蕎麦もあります。

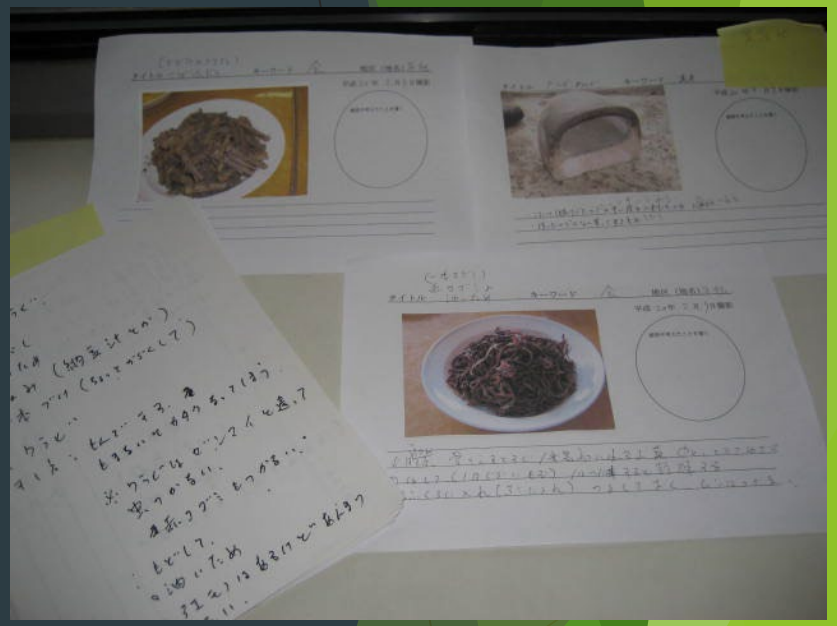
地元学（地域の環境文化調査）

皆で発表会、調べたものを地図にまとめて今後の活動を集落の将来の夢を語り合いました。

子供から大人、じいちゃんばあちゃんまでみんなで語り合いました。

地元学の成果物

- 地域マップ
- 地域資源カード
- 地域の歳時記



自分たちの調べ作成した一次資料を基に地域づくりを考える。

祭り・行事

仕事
山、畑、田んぼ
など

遊び・楽しむ
川や山での
魚釣り、泳ぎ、
山歩き、山菜とり
など

お手伝いツァー
ワーキング・ホリデー

参加・体験

見る・眺める
聞く

地域に根ざした手作り地域産品

地域を生かした究極のキャリア教育が展開できる！

地域での探究（調査と実践）の場づくりの端緒をどうつかむか？
ー参加／交流／学習を促進するため機会創出のためにー

- 地域の方々との「まちあるき」と「お茶飲み」
  →**コミュニティカフェ**のすすめ

2. 学習・研究の指導ツールとしての映像利用

- （1）イメージをもつ、発想をもたらす、比較検討の端緒
- （2）NHK地域づくりアーカイブス,

  https://www.nhk.or.jp/chiiki/

・映像を用いた地域意識を育む教育と研究の促進,

  https://www.nhk.or.jp/chiiki-blog/1400/474751.html

3. ロジックモデルの活用可能性

ある人のいわく、人の価は人に定めらるべきものにあらず、みずから定むべきものなりといえり　－森鷗外『知恵袋』より－

授業プログラムの評価と改善、見直し、参加促進による教育（学習支援）力向上のために

ー生徒・住民・教員参加型評価のすすめー

- （1）評価とは本質的に教育・研究活動そのもの

  ・評価研究はアクション・リサーチ

  「アクション・リサーチとは研究–実施－検証からなるサイクルである」

  ・参加型評価と参加型研究の視点－学習者や支援者との協働－

- （2）ロジックモデルを活用した指導改善

成人教育学者E.ハミルトンによる地域づくりモデルの評価観点

（E.ハミルトン著、田中雅文、笹井宏益、廣瀬隆人訳2003「成人教育は社会を変える」玉川大学出版）

- 1) いくつかの把握可能なプロセス変数がある
- 2) プロセスは現実感覚で理解しやすい枠組みに沿って進行する
- 3) いくつかの予見できる成果がある
- 4) プロセスと成果との関係は、地域づくりを特色ある活動として説明するための枠組みを提供する

プロセス変数	成果変数
① 参加し、関与している住民の数 ② 期間の長さ ③ 住民の組織化能力 ④ 提起された課題の数 ⑤ 地元住民による支援の量と地域づくりの推進力 ⑥ 資源の効果的活用	① 個人の成長 ② 啓発的波及効果 ③ 組織自体の発展 ④ 政治的影響 ⑤ 地域の目標 ⑥ 広範な長期的効果

ロジックモデルを基盤とした参加型アセスメント（評価）の展開可能性

- ①実践の計画と進行管理を促進するツール
- ②すべてのステークホルダーが参加して対話のなかですすめるために、参加者たちの相互理解と合意を形成する役割を果たす
- ③地域づくりの実践は、参加者たちの意欲や関心を育むことが最も大切な課題であり、ロジックモデルは、これらを促進する手法

高橋満2019　大正大学EMIR小研究会資料より

〈問題の設定〉
プログラムで活動しようという問題についての記述

〈目標〉
意図した目的、またはプログラムをとおしたインパクト

〈根拠〉
なぜ、プログラムの活動は、結果を生みだすのか。

〈前提〉
プログラムの成功に必要な、どのような要因がすでに存在しているのか。

〈資源〉
提供される、あるいはプログラムによって使われる人、時間、資材、資金など

〈活動〉
望ましい結果を達成するためにとられる諸行為

〈アウトプット〉
プログラムの活動により、明確で、直接的に生み出すもの

〈アウトカム〉
プログラムから結果する期待した変化＝クライアント、コミュニティ、システムあるいは諸組織における変化

〈外的な諸要因〉
プログラムの結果に影響；プログラムのコントロールを超えた条件

高橋満2019
大正大学EMIR小研究会
資料より

- ロジックモデルの主要要素は、資源、活動、アウトプット、アウトカムの４要素により構成される。

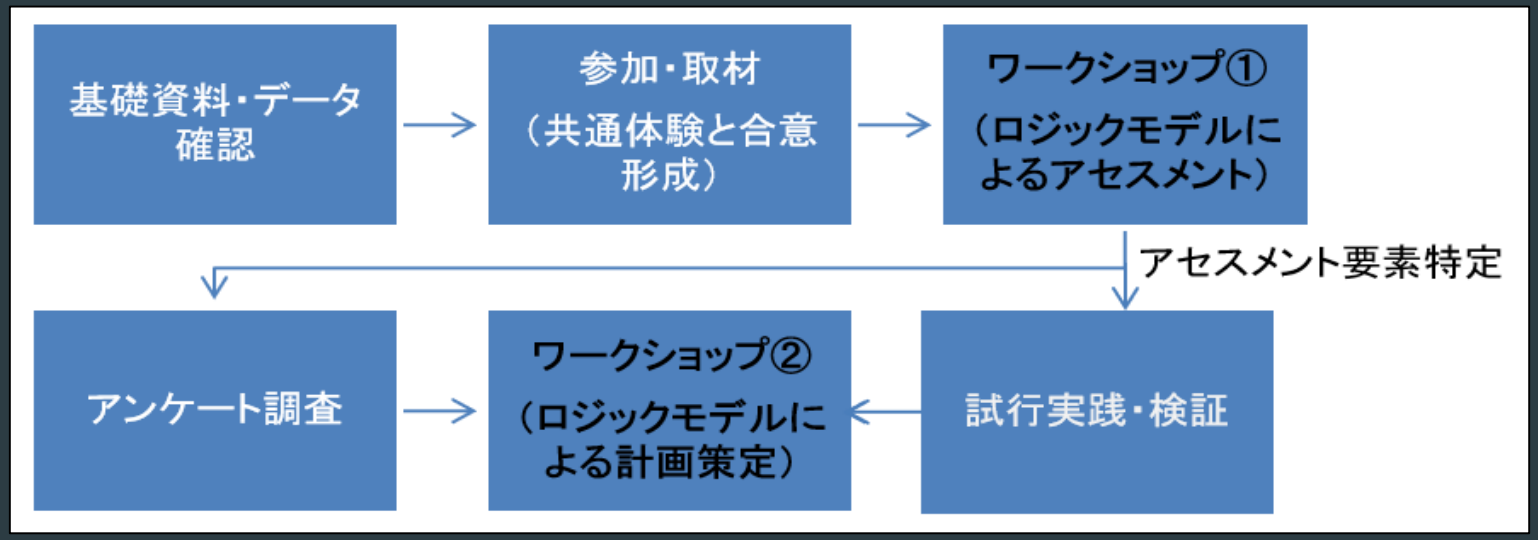
- 特に注意を要するのは、アウトプットとアウトカムの関係である。アウトプットは活動の結果であり、アウトカムはその結果からもたらされた効果や成果といえる。地域教育実践において、アウトプットよりも、いかにこのアウトカムのアセスメント（評価）へとアプローチできるかが重要であると考えられる。

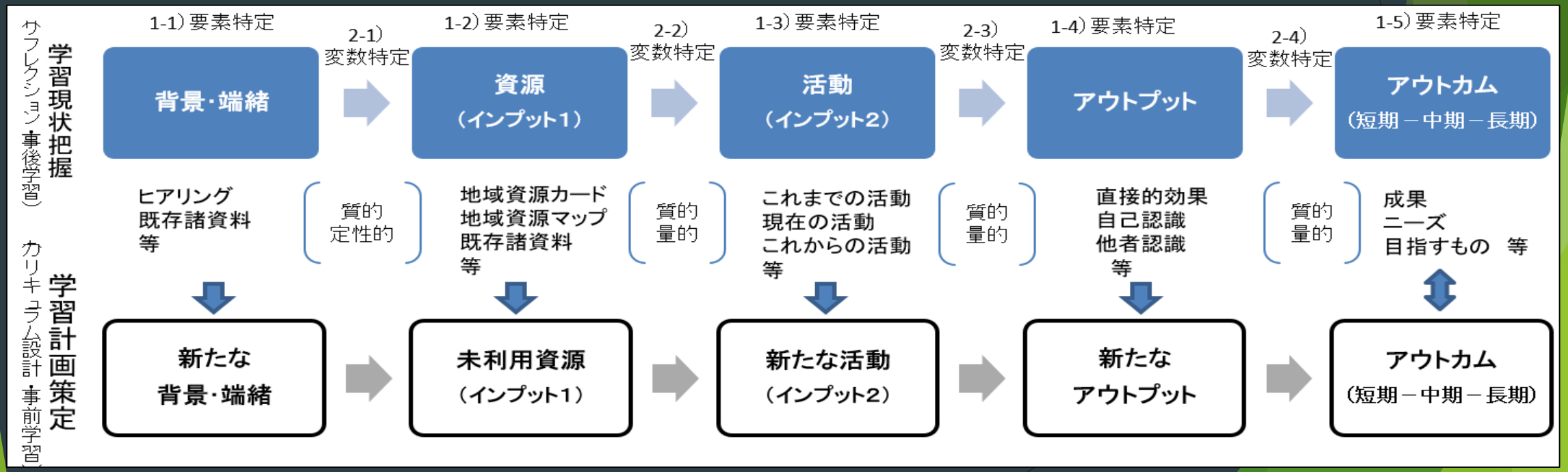
- 例えば、教育活動により、参加者や学習時間が伸びたこと（これはアウトプット）の計測にとどまるのではなく、それによってどのような効果や成果がもたらされたか（地域理解の深まりや行動変容をもたらしたなど）ということを、いかにアセスメント(評価)するかこそ問われるべきものである

出典：出川真也2019「地域と学習者と共に実践するアセスメントと新たな教育的価値の創出」大正大学エンロールメント・マネジメント研究所紀要第1集より

大正大学機関リポジトリ (nii.ac.jp)

ロジックモデルを用いたワークショップ設計





参加型教育アセスメントWSロジックモデルシート

1. これまでのプログラム要素

①インプット（資源）	②インプット（活動）	③アウトプット（効果）	④アウトカム（成果）

2. 新たなプログラム要素

ロジックモデルアセスメント各地試行実践

宮城県気仙沼市　地域学習とその成果、特に地域学習支援者への効果に焦点を当てて（公民館）

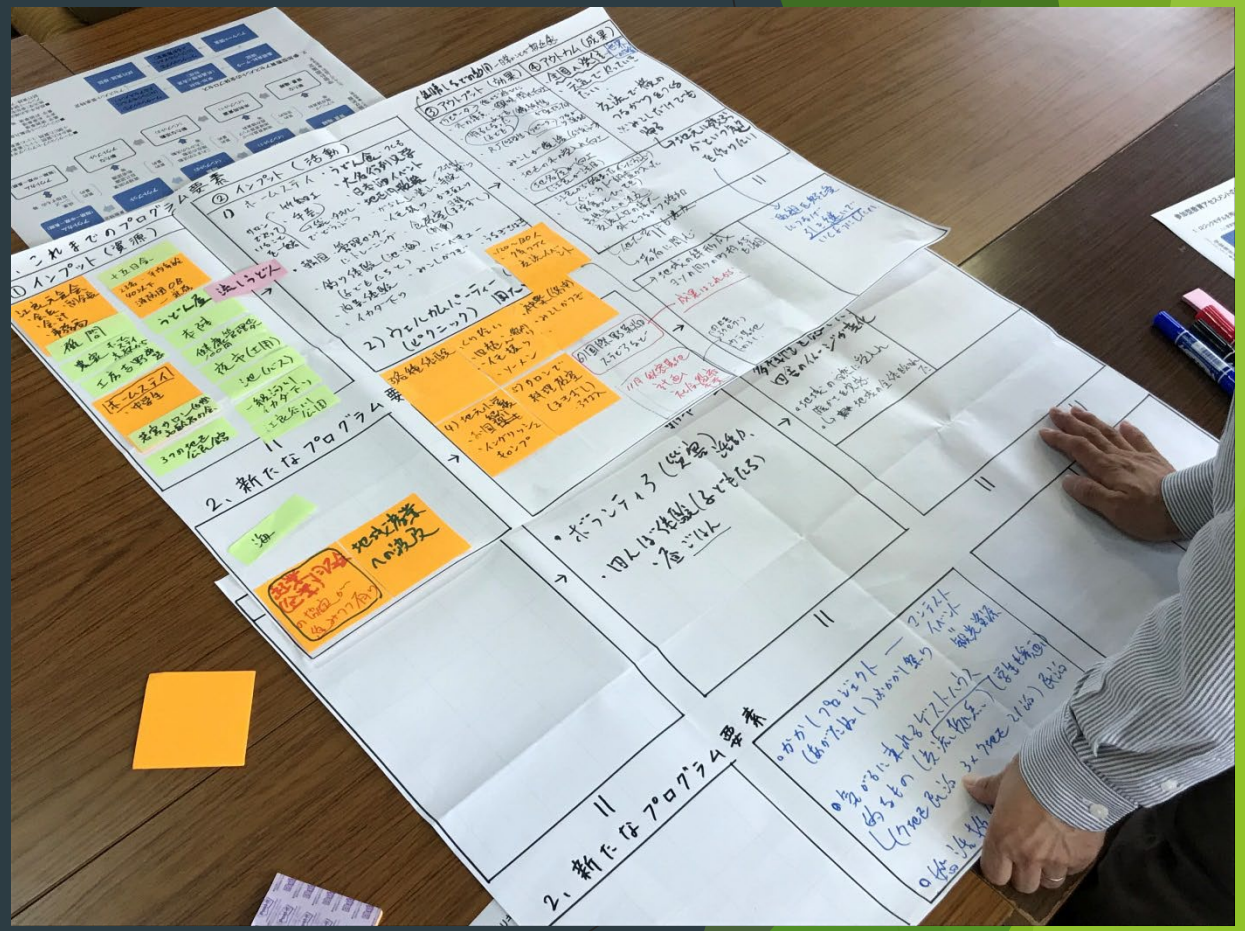
新潟県上越市桑取地区
地域NPO法人による地域学習活動と地域づくり実践、
その成果の振り返りと今後の活動検討（NPO、公民館）

岡山県矢掛町　－岡山大学地域総合研究センターとの協定事業研究－

留学生の受け入れプログラムを実施している岡山県矢掛町江良地区

地区住民、学生参加により実施

岡山県矢掛町　－岡山大学地域総合研究センターとの協定事業研究－
留学生の受け入れプログラムを実施している岡山県矢掛町江良地区　振り返りの様子



岡山県矢掛町－岡山大学地域総合研究センターとの協定事業研究－
矢掛高校でも実施（地域での教育活動を題材に　在学生及OB,OGも参加）

参加型教育アセスメントWSロジックモデルシート

1. これまでのプログラム要素　岡山県矢掛町江良地区　2018年9月29日

岡山県　矢掛町江良地区　作業中1010

①インプット（資源）	②インプット（活動）	③アウトプット（効果）	④アウトカム（成果）
江戸元気会 会長　副会長　会計　事務局　顧問 農家ホームステイ京都から 工房吉野　磁器 ホームステイ中学生 若宮サロン（姓）高齢者の会 三つの地区　公民館 海 十五目会 23名　平均年齢40歳以下　消防団OB消防団兼務 うどん屋　流しうどん 本陣 健康管理センター　100回 夜市（土用） 池（バス） 一級河川　筏下り 江良谷川公園	1）ホームステイ ・竹細工　・手芸　袋・タオルで動物（サロンでやっていることを一緒に）・韓国管理センターにトレーニング　・釣り体験（池、海）（子ども達と）　・陶芸体験　・筏下り　・うどん食　つくる　・大名行列見学　・日本酒イベント　・地区内散策　・がらん山登山、スポット巡り、寺院　・芋掘り　・かき取り　・食教室（刺身）（日韓巻き寿司）　・バーベキュー　・神輿担ぎ　・うるぎさばき 2）ウェルカムパーティー ・大人数　120～130人　7年続く交流イベント ・ピクニック　岡大とのきっかけ 3）各種体験 ・栗拾い　田植え・稲刈り　芋掘り　ソーメン 神楽（備中）神輿担ぎ 4）地元小学校　お国紹介　イングリッシュキャンプ 5）サロンで料理教室（巻きずし）アナゴ入り 6）国際野菜畑　スラビアなど 7）その他の展開 ・授業参加の中で体験・歴史・朝市 ・ボランティア（災害）活動 ・田んぼ体験（子供達）　昼ごはん ・11月　秘密基地計画　社会教育事業としての展開	1）リピーター　後から遊びに RJ（留学生）リピーターつながり深まる 2）外の接点　興味・関心向上 3）明るくなった子ども（積極性が出てきた） 4）神輿が復活（65年ぶり） 5）地区の外の受け入れ向上 地域の自然に受け入れ　暖かさを実感→地域の全体を知れた 他大学にも波及　→若者にも関心 6）知名度が向上（江良が注目） 国際化実感　矢掛町全体 多様性を感じた　田舎のイメージが変化	全国へ発信→世界一の田舎 元気でやってきたい 交流で横のつながりをつくる ※神輿だけでも帰る 地元に残ろうかという気運を作りたい
		地域の絆形成 ヨソの周りの町村からも注目 野焼き　アクセサリ　ウラ基地　のろし　などのイベント形成 成果はこれから	取り組みを郷土愛につなげ、引き継いでいくようにしたい。

2. 新たなプログラム要素

起業（企業）同友会の協定が進みつつある 地域産業への波及	かかしプロジェクト一コンテスト、イベント＝観光資源 （県主）※かかし祭り 気軽に来れるゲストハウス的なもの（交流拠点）（学生も参画） →（7地区民泊　3×7地区21泊）民泊 いわゆる婚活推進へのきっかけもつくりたい		

ロジックモデルを用いたワークショップ方法

- ロジックモデルシートを用いて、取組の振り返りと新たな実践プログラムの要素を導出する

- 個人ワーク（20分）：シート①

ロジックモデルシートの上の段に、これまでの自身の取組を振り返りながら、記入する

- グループワーク①（20分）：シート①

記入した各自のロジックモデル内容を共有。課題や展望から新たなプログラム要素を下の段に記載する。

- グループワーク②（30分）：シート②

グループワーク①を踏まえながら、新たな学習支援（もしくは実践）プログラム構想をロジックモデルの形で表現する。

- 報告

シート②を投影しながら、作成した学習（支援）プログラム構想を発表する

学習者とともに実施する際のコツとして

- 現時点、「いま、ここ」の問いかけから始める

　ロジックモデル自体は左から右に読むものだが、真ん中から始めて、左右に質問を展開していく方が答えやすい。時系列が過去、未来の質問は一般的に言って答えづらいもの

- すべてを数値化できるわけではないが、できるものもある。できるものに関しては、なるべく量的表現を試みてみる

　「ところで、これは数字や量だとどう表現できますか」など

- 「システム志向」の考え方も併せて念頭におくこと

　ロジックモデルの各要素の背後には螺旋的・往還的なプロセスが隠れていると考えられる。そうした背景を持ったうえで住民・学習者がロジックモデルの形式に合わせて答えていることに留意すること。

- 「プロセス志向」と「課題志向」課題達成も重要だが、プロセス自体に価値があるということを念頭に入れて進める。

やってみようロジックモデル

- 1．これまでのご自身の教育活動（学習支援活動）で、印象に残っていることや実感していることを、端的な表現でロジックモデルの形式で書き出してみる（シート1）

- 2．今後取組んでみたいと考えていることを、端的な表現で、ロジックモデルの形式で書き出してみる（シート2）

シンプルな、大まかな形でOK

書き出したら、送信・共有をお願いします。

4. 教育・研究・実践のための学習参加を促進するツールとしての「地元学」と「ロジックモデル」

- 交流・学習・実践の参加促進ツールとして

・様々な人々-高校生、若者、子どもから高齢者まで-

・様々な組織-行政、町内会、サークル、企業・事業者-

「すべてのステークホルダーが参加して対話のなかですすめるために、参加者たちの相互理解と合意を形成する」

- 地域で楽しく交流と探求を促進する「**コミュニティカフェ**」のすすめ

レポート課題

- 探究授業を念頭におきながら、「地元学」と「ロジックモデル」についての各自の理解と、今後のご自身の教育活動での活用可能性について、考えたことを、自由にコメントしてください。

- 字数400～800字程度

- 提出について（期限：11月中目処）
  wordにて、瓦田先生まで送信ください。